

【発行者】新潟農業普及指導センター
新津庁舎:0250-24-9624、津川分室:0254-92-0965

単収 200kg 以上、2 等級以上を目指して **耕耘・播種・雑草対策！**

- 出芽・苗立を高めるため碎土率を 70%以上確保！
- 「里のほほえみ」は裂皮防止のため 6 月上・中旬に播種
- 帰化アサガオ類は「つる」が出る前に体系防除を徹底

1 施肥（大豆は多量のカルシウムを吸収する植物です）

(1) 酸度矯正

石灰質資材の施用で土壌 pH の矯正(目標 6.0~6.5)とカルシウム補給
(施用量のめやす「消石灰」100kg/10a または「炭カル」120kg/10a)

(2) 基肥等

- 基 肥 成 分：10a 当たり窒素 1.5~2.5kg、リン酸 6~8kg、カリ 6~8kg を基準に施用
(施用量のめやす「ニュー大豆 800」20~30kg/10a)
- コ ス ト 削 減：肥料の低コスト化として、化成肥料の代替に鶏ふんの利用も有効。
- 緩効性肥料の利用：地力の低いほ場では、追肥分が含まれた全量基肥施肥肥料を窒素成分で 7~8kg/10a 施用するとしわ粒等の対策となり、増収も期待できる。(施用量のめやす「ワンタッチ大豆」40kg/10a)

2 耕耘・播種（過乾燥や過湿を避けるため、耕耘~播種までの期間を開けない）

(1) 適切な耕深と碎土率 70%以上の確保

目標：耕深 13~15cm、碎土率（2 cm 以下の土塊重量割合）70%以上

~碎土率 70%以上を確保するポイント~

- ア 排水対策を早め実施するなど、ほ場を十分に乾かす。(特に水田に隣接するほ場)
- イ 低速走行とロータリー高回転で、丁寧に耕うんする。

※複数回耕うんする場合は、1回目を丁寧に言う(1回目が粗いと2回目以降は細かくなりにくい)。



(2) 播種

○種子は播種前に塗抹等の薬剤処理を行う。(紫斑病・初期病害虫防除、鳥害防止)

○品種別の播種量・密度のめやす

品種名	播種時期	目標苗立ち数 (本/m ²)	畦幅 (cm)	株間 (cm)	
				1粒播き	2粒播き
里のほほえみ	6/1～6/15	9～18	75	6～11	12～23
エンレイ (標準播)	5/20～6/10	9～10		10～11	21～23
エンレイ (晩播) あやこがね	6/11～6/20	13～18 16～19		6～8	12～16

○播種深度:3～4cm(土壤水分が高めな時はやや浅め、乾燥気味な時はやや深めに調節)とし、播種時の目詰まりに注意する。

○畝立て播種は、畦の高さは10cmをめやすとし、播種後は畝間の溝を確実に周囲明渠に繋げる(畝間に滞水すると生育不良になりやすく、除草効果も低下する)。

○「里のほほえみ」は「エンレイ」より粒が大きいので、播種機の見皿は大粒用に交換し、目詰まりに注意する。

2 雑草防除(雑草の種類に応じ、効果の高い除草剤を選びましょう)

○耕起前に雑草が多い場合、耕起前に大豆に使用登録のある茎葉処理除草剤を散布し、雑草を枯殺する。

○播種覆土後は、ただちに土壤処理除草剤を散布する。

～土壤処理除草剤の効果を高めるポイント～

ア 砕土率を高め(除草効果向上)、覆土の厚さは3cm程度を確保する(薬害防止)。

イ 覆土後ただちに散布し、乾燥または過湿の状態での使用を避ける(除草効果向上)。

ウ 砂土では薬剤が土壤に吸着されず薬害を起こすので使用を避ける。

※帰化アサガオ類が発生している場合は、効果の高い除草剤と中耕・培土を組み合わせた体系防除を実施する。

帰化アサガオ類対策のための体系防除

- ① 土壤処理除草剤(播種後出芽前)
- ② 茎葉処理除草剤1(大豆2葉期から開花前)
- ③ 中耕培土(開花期まで)
- ④ 茎葉処理除草剤2(株間処理:大豆5葉期以降雑草生育期)

【注意点】

- ・再生防止のために地際から刈り取るか抜き取る。
- ・種子の後熟防止のために刈り取った株を放置しない。
(5cmの高さで刈り取っても…刈り株の節からつるが伸び、1週間後には1m近くになります)
(開花後に刈り取って放置すると、緑色の果実の中の未熟種子が後から熟して発芽力のある種子になります。)
- ・非選択性茎葉処理除草剤による防除は、上の方の葉や先端だけでなく株元まで十分かかるように散布する。

【その他】

- ・難防除雑草は、除草剤により除草効果がかなり異なるので、ほ場の雑草に合わせた除草剤を選択する。

マルバルコウ、マメアサガオ、アメリカアサガオ
帰化アサガオ類

